

支援級と通常級、先生と子どもと保護者、キーワードは『つなげる』

鴨居小学校校長

sukasuka-ippo 代表

## 【対談】新倉 邦子先生 × 五本木 愛

横須賀のバリアフリー子育て情報局

sukasuka-ippo

http://www.sukasuka-ippo.com

発行責任者 / 五本木 愛 編集 / 竹島



鴨居小学校に今年度から校長として赴任した新倉先生と sukasuka-ippo の代表であり鴨居小の P T A 副会長でもある五本木との対談が実現！鴨居小の PTA 広報の皆さんと sukasuka-ippo のメンバーが同席して、学校・地域・家庭のつながりが深い鴨居小の子どもたちについて、普段はなかなか知ることができない小学校の校長先生の思いや支援教育の在り方についてお話を伺いました。こちらの紙面では主に支援教育の話題に的を絞ってダイジェストにしてみました。サイトと合わせてどうぞご覧ください！

### ■子どもたちはスポンジ！もっといい授業を提供したい

**新倉** 今はやはり全国的にどこの学校も学力について数値を重視している。それも大事だけれど、私はもっとプロセスを大事にしたい。赴任して2ヵ月。鴨居小の先生方は一生懸命仕事に取り込んでいます。でも、土台になるのはやはり家庭教育。例えば、掃除の時に「下から3段目を掃除してね」と言うことで算数の順列の勉強になります。先生方にも保護者の皆さんにもそういう気持ちで子どもと関わってほしい。掃除、給食、家庭生活にもすべて学習要素があって、そういうものが子どもたちを作るという原点を忘れちゃいけないと伝えていけたらいいと思っています。

### ■教室を飛び出しちゃう子にみんなで合わせちゃえ！

**新倉** 今、支援教育が叫ばれていますが、以前はそれぞれ特別支援学級もなかったし、私が担任を務めた1年生のクラスにも障害を持っているお子さんがいて、この子をどうにかしなくちゃいけないと思ったんです。本もたくさん読んで、研修もたくさん受けたのに、どうしてもうまくいかない。そこで、〇〇ちゃんが大変なクラスと考えるんじゃなくて、〇〇ちゃんがいるからできるでしょ？と考え方を変えてみた。1年生だから担任がそういう姿勢を示すと子どもたちもがらりと変わる。例えば、〇〇ちゃんが教室から逃げ出してしまったら、「〇〇ちゃんが行きたいんだからみんなで一緒に行こう！」って、国語の予定が生活になっちゃうわけですよ。その子に合わせて授業変更することになるので保護者にも説明したら、みなさんちゃんと納得してくれたんですよ。その時は懇談会で泣きました。ああ、わかってもらえたって。その後、その子のお母さんもお子さんの特性に気づかれて、最終的には支援学級に移りました。その子が私の赴任してる学校に交流で来たときに、ちゃんと私の事を覚えていて周りの子に自慢げに私の名前を伝えるのを見て、また泣いちゃいました。だからやはり、今、子どもたちの障害あるなしに関わらず、支援教育全体でそういう柔軟な視点を取り入れることで、みんながよりハッピーになれるんじゃないかなと思っています。

### ■教師になったきっかけと、教育実習での貴重な経験。

**新倉** まず、教育関係の大学に入学し、教師の仕事は面白いと思ったんですが、いよいよ採用試験という時に自分は本当に教師としてやっていけるのかと迷いながら教育実習に行っただけです。そうしたら面白かった！1年生だったんですが、ちょっと教えたらすぐ伸びる。そして、実はその時に担任の先生に「あなたは教育実習の1か月間、〇〇ちゃんの隣にいて一緒に勉強して！」って言われて、ダウン症のお子さんに付くことになったんです。それですごく学んだんです。その頃は支援教育とか何も言われていなかったのに、その年配の先生はいつもその子を取り入れて授業をやっていて、30数年前のことですが、今振り返っても感動します。体育の授業の時も、「その子がいてできる授業をやってあげなくちゃいけない」って。その子が大人になってからある駅で偶然会った時に、やはり私のことを覚えていてくれてそれも感動してしまっただけです。それがスタートでした。先生方それぞれにきっかけはあると思いますが、やっぱり子どもが好きってところが欠落していると教師はできないと思います。本当に面白いです。

### ■具体的に支援級と通常級の交流はどうですか？

**五本木** 支援級に通わせている保護者の中にはまだ十分にお子さんの障害を受け入れられていない方もいますし、遠慮も戸惑いもあって自分から他の保護者と関わりを持っていくまで至っていないというケースもあると聞きました。

**新倉** 私としては、支援級の保護者の方も交流級の授業はもちろん懇談会にも出るのが基本だと考えています。そのため、前任校でも時差をつけて交流級の懇談会に出た後に支援級の懇談会に出られるようにしてきたこともありました。つまり子どもが行っている学校、学年、クラスの人と繋がることが子どもが生きていくうえで大切だと思うんですね。

今、キーワードはつなげるなんです。授業も人もつなげる！学校は懇談会や行事などを行う際も、工夫して意図的に保護者同士をつなげていけるようにしなくてははいけないと思っています。

### ■支援級の在り方についてどうお考えですか。

**新倉** 子ども1人1人に個別支援計画がありますが、算数は支援級で、社会と国語は交流級で行けるといような柔軟性がとても大切。でも、先生の人数や時間割の都合で障害の異なる子どもたちが混在する時間というのもし生じてしまい、現場はなかなか大変です。交流に行くことが必ずしも良いことではないけれど、通常級の子どもから学ぶことが多いのもまた事実。子どもの実態に合わせ、また個々の成長に合わせてながら通常級との交流を深め、広げていく必要があります。

### ■支援教育についての専門性の高い情報を鴨居小に！

**五本木** 親も現場の先生も支援教育についてももっと学べたらいいと思うのですが、この鴨居小学校で講演会や研修会などをすることはできませんか？

**新倉** 今年度からスクールソーシャルワーカーが鴨居小学校に拠点を置いて、近隣の小学校に関わっていくことになっています。実は、このチャンスを生かして、校内で支援教育の研修をやらうと計画中です。理論も大切ですが、もっと日常で使える情報、若い先生にもすぐに使えるノウハウを得られる研修が今、必要です。また、支援級の先生だけではなく、交流級の担任の先生も支援教育の知識を持っていないといけません。給食だって、交流級でただ食べさせれば良いというものではなく、支援級の子には思いがあるということ、例えば食べる順番が決まっていって変えられない子もいるし、そのあたりをきちんと理解しないと支援はできないと思うんです。

**五本木** そう、そこなんです。子どもたちはわけが分からないことをやっているわけではないんです。ちゃんと理由があって、ルールがある。そういう特性をわかって子どもと接するのと、そこを理解しないで接するのとでは、その子の伸びが大きく変わってくるので、そこは先生方に一番知ってもらいたいところですね！

**新倉** こういうことが他方面で語られることが大切ですね。支援級と通常級、現在でも分けているわけではないし、これからはさらに交流が進んでいくと思いますが、どう進めていくかは学校に任されているところがあります。先生方も熱意があるので、校長としても先生方と一緒に頑張りたいと思います。